



# 国臨協関信

HPアドレス [http:// kanshinshibu.org](http://kanshinshibu.org)

平成30年 1 月

事務局 〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1  
国立国際医療研究センター病院中央検査部門内  
発行者 峰岸正明  
編集委員 吉田茂久・中尾知江美・柳 進也  
印刷所 東洋印刷株式会社  
☎ 03-3352-7443

撮影地：2017年2月：北八ヶ岳 北横岳山頂 撮影者：石田 健倫

## 謹賀新年

平成30年 正月

### 新年の御挨拶



国立病院臨床検査技師協会関東信越支部  
支部長 峰岸正明

あけましておめでとうございます。

国臨協関信支部の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたことと謹んでお喜び申し上げます。また、旧年中は多大なるご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。今年も旧年にも増して

ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、国臨協報誌においても「駅伝」のことに少しふれていますが、支部ニュースにもその続きを記載したいと思います。駅伝というとニューイヤー駅伝、箱根駅伝が有名ですが、私の住んでいる茨城県でも12月のひたちなか市で開催される三浜「さんびん」駅伝があります。那珂湊、平磯、大洗の三つの浜を繋ぐのでこの名前が付けられたようです。昨年で72回となった歴史ある大会です。駅伝は日本発祥のスポーツとなっていて、日本の人気は高いですが、マラソンとは違い世界には広がっていないようです。これから世界に広がるかどうか、またその必要があるかは別な話として、どのようなことでも大勢の人に大事なことを広げるには、今携わっている人たちの思いと、行動、そして戦略が必要となります。決して第三者が広げてくれることはありません。私達にとっては「検体採取」「ISO15189」「認知症検査」などを新しい発想と行動で取り入れ、次の臨床検査にバトンを繋げるように取り組んでいく必要があると考えます。

結びに関信支部では、「ルーチンアドバイザー (RA) を学術委員会への移行のためのワーキンググループ (WG) 設置」の事業について、WGから答申を受理しました。この内容を踏まえ会員の皆様にとって有益な学術委員会が立ち上がるように、ルールを敷くことが最も大事になると考えております。そこに向けてしっかりと実現できるように取り組んでまいります。本年も会員の皆様にとって、有意義な会務になるように臨床検査専門職、技師長協議会、国臨協本部のご指導をいただきながら運営していきますので、本年もどうぞ宜しくお願いします。



独立行政法人国立病院機構 関東信越グループ  
医療担当 臨床検査専門職 林 亮

新年おめでとうございます。

国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

旧年中は皆様方から多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、日頃より単身赴任や遠距離通勤を余儀なくされている皆様方に対して、改めて心より感謝申し上げます。

関東信越グループ臨床検査専門職として、人事管理及び研修事業等を行って参りましたが、喫緊の課題として取り組んでいます管理的立場の臨床検査技師育成に関して、主任技師の配置が出来ず、一般技師で流用せざるを得ない施設があるなど、皆様方にはご不便をお掛けし大変申し訳なく思っております。毎年退職される大勢の方々の後を担う人材育成を含め、国臨協関信支部、技師長協議会と密に連携し研修会を新たに立ち上げるなど取り組み強化を図っております。ここ数年の取り組みが将来の臨床検査部門に大きく影響することは間違いありませんので、皆様方にも危機感を持って、ご協力をいただければ幸いです。

また、今年度の大きな出来事として、医療法の一部改正をする法律が施行されます。「臨床検査の精度の確保に関する事項及び臨床検査技師等に関する法律の一部改正など重要な内容が含まれておりますので、皆様方には施行に向けた厚労省での検討会など動向に注視され、適切な対応をお願いいたします。

最後に、各地区会にてお話しして参りましたが、あらためて医療従事者として、身だしなみや患者接遇の向上、日々進歩する医療へ対応するための自己研鑽など自覚を持って、日々の業務にあたっていただきたいと思います。

本年が会員皆様方にとって素晴らしい年になりますよう祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



## 茨城地区会会長……………永 井 信 浩



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、穏やかな新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。さて、茨城地区会も昨年第37回定期総会を迎えることができ、これも一重に先輩方のご苦勞された業績と思い、今後ともこの地区会を盛り上げ継続していくことがわれわれ会員一人ひとりの使命だと考えております。学術研修会では水戸医療センター臨床検査部長小野栄夫先生に「免疫抑制シグナル」についてご講演をいただきました。この講演を聴講しあらためて私自身の知識の無さを痛感させられました。また、茨城地区会の特徴として地区会情報誌「いばコミ」を毎年発行しております。これは会員一人ひとりが「顔」のみえる化…となっている情報誌ですのでぜひ関信支部の方々にもホームページをご覧いただけたら幸いです。地区会として、若手技師の更なるキャリアアップ推進と検査部門の組織力向上に取り組みでまいりますので今後ともよろしくお願いいたします。

最後になりますが、今年も関信支部の発展と会員一人ひとりのご健康とご活躍を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

## 栃木地区会会長……………久 間 修 平



新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。関信支部会員の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと存じます。今年も栃木地区会をよろしくお願い致します。昨年11月の地区総会において南雲 功前会長より引き継ぎました。栃木地区会は二施設で距離も近い事も重なり、学術集会やレクリエーション等の参加者も多く、地区会の懇親を含め活発に活動しております。

今年度は診療報酬、介護報酬のダブル改定の年で、数年前までは介護報酬まで気にする事も有りましたが地域包括ケア病棟などが設置され、また居宅など介護現場での臨床検査技師の介護を意識した業務も考えて行かなくてはと思っています。

最後になりますが、本年も関信支部の発展と会員皆様のご多幸と益々のご活躍を祈念しまして、新年の挨拶とさせていただきます。

## 群馬地区会会長……………清 水 紀 臣



新年、おめでとうございます。国協関信支部会員の皆様には健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。今年はFIFA World Cupが開催されますが代表の中心とされ実績ある選手に代わり、若手の成長著しい選手が起用され世代交代を実感します。この若い力のめざましい成長も、Jリーグが発足して環境整備されたことが大きな要因だと思います。我々も同じで、その環境を整備する国協、関信支部の組織力が果たす役割、役員皆様のご苦勞には敬意を表します。昨年、研修会講師をお願いした県立

病院の技師長さんと会話する中で、組織力の違いを知り我々組織の高い評価を頂きました。それは国協が果たしているものの大きさと研修会、企画力の素晴らしさを再認識するものでした。地区会は支部に依存し、地区だけで活動しているように思っていた事を漸く認識できた気がします。地区会は支部の役割を理解し、繋がりを深めるべき事を痛感しました。群馬地区は新潟、長野、栃木に囲まれ、奥山から関東平野を望むと全体が見渡せる気がします。支部ありきの地区会で無く、地区会あつての支部といえる発信をここから出来ればと思っています。前峰岸会長に獲得して頂きたかった「地区会コーナー 優秀賞」。逃した「群馬の悲劇」から一年、「群馬の野望」をテーマにリベンジを誓い、「2018' 群馬の歓喜」を悲願に活力ある企画を支部に反映出来ればと思っています。関信支部会員の皆様、各地区会にとって、より良い年になることを祈念してご挨拶とさせていただきます。

## 埼玉地区会会長……………渡 辺 靖



新年明けましておめでとうございます。埼玉地区会を代表して関信支部会員の皆様には新春のお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと米国のTPPやパリ協定からの離脱、北朝鮮の核開発・ミサイル発射、希望の党や立憲民主党の立上げと民進党の事実上の解党、日本を代表する企業の不正露呈と何かと世間を騒がす事項が多いと感じた1年でした。国家や企業の指導的立場の人々の考え方や管理能力により、物事が大きく変化することを強く感じ、立場の大小はありますが、職場長という立場に置き換えても再考する良い機会になったと感じております。

さて、昨年の埼玉地区会は、国立国際医療研究センター病院から前澤直樹先生をお招きして「ISO 15189」についての講演会を、会員の親睦を図るための交流会としてバーベキュー大会を開催しました。また、会報誌を2回発刊し、支部ホームページに投稿しました。今年も昨年同様、会員のスキルアップや親睦のために活動して行く所存です。

最後に皆様のご健康とご活躍を祈念し、新年の挨拶と致します。

## 千葉地区会会長……………小 川 勝



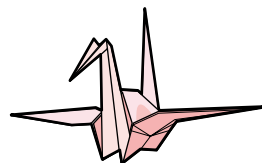
新年明けましておめでとうございます。関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと存じます。

昨年、箱根駅伝で青山学院が3年連続総合優勝を果たしたのをテレビで観戦していたのがつい先日のように思えるほど、あっという間の1年でした。私個人としては4月に国府台病院に赴任、7月の千葉地区会総会で会長に就任しました。理事の

方々や会員の皆様に助けられながら何とか地区会運営を進められています。

千葉地区会の昨年の活動は、5月に文化活動としてサッポロビール工場見学、7月に平成29年度第36回地区会総会・研修会、11月には第2回研修会を開催しました。いずれの会も多くの会員が参加し、活発な意見交換やコミュニケーションの場として利用できていると実感しました。

今年の千葉地区会も昨年同様多くの会員がコミュニケーション場として利用できるよう活動していきたいと思ひます。最後に関信支部役員並びに会員の皆様のご健康とご活躍を祈念して、新年の挨拶といたします。





## 東京地区会会長……………久 高 果 市



新年明けましておめでとうございます。関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、東京地区会では昨年、文化交流会として「楽しみながら防災体験」を計画し立川防災会館にて行いました。私たちが住むこの日本列島は、地震や台風、記録的な大雨などさまざまな自然災害が多く発生しており、私たちはいつ、どこで、どんな災害に見舞われるかはわかりません。日頃から災害時の備えとして、防災知識を身につけ行動力を高めることを目的に防災体験を企画、64名の参加のもと防災について楽しく体感しながら学ぶことが出来ました。

また、10月には定期総会に併せ「今後迎える2025年問題について」をテーマに研修会を開催しました。内容については国が示している2025年の医療・介護のあるべき姿やそれに向けた施策の概要、臨床検査部門の対応、他施設の取り組みなど例に挙げ解り易く説明がなされました。

会員一人ひとりがこの問題について真剣に考え、今後の臨床検査部門の在り方や検査技師が何をなすべきかなど考えるきっかけになればよかったかなと思っています。今年も理事を中心に施設間の連携を密に取り、東京地区会を盛り上げていきたいと考えています。

最後になりましたが、この新しい年が関信支部会員の皆様にとって、より良い年になりますよう祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

## 東京・山梨地区会会長……………長 田 裕 次



明けましておめでとうございます。関信支部会員の皆様には新春のお慶びを申し上げます。

国立病院機構では相変わらず経営状況が厳しく、平成29年度上半期において、関東信越グループの32施設中わずかに8施設しか経常収支率を100%超えることができませんでした。国立病院総合医学会でも楠岡国立病院機構理事長が昨年度に続き、機構経営状況の厳しい現況が講演され、検査部門でも益々経営改善努力等が求められていくと思われます。

さて、東京・山梨地区会では昨年の活動で初めての試みでボーリング大会を開催しました。あいにくの天気の中、何と55名の参加があり、大いに盛り上がり、施設間の交流ができた企画で継続を思案中です。また、研修会、関信学会地区会コーナーポスター作成と地区会活動が軌道に乗り、発足当初とはだいぶ様変わりしてきたと思います。今後も更に各施設の交流を盛んにして東京・山梨地区会の存在を確立させていきたいと考えています。地区会会員の皆様には地区会活動に積極的に参加していただき本当に感謝しています。本年も宜しくお願いいたします。最後になりますが関信支部役員と会員の皆様の益々のご活躍をお祈りして、新年の挨拶とさせていただきます。

## 神奈川地区会会長……………瀬 下 明 子



あけましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

今年の秋は神奈川にも台風が上陸し大きな爪痕を残していきました。私も高潮や土砂災害における防災センターからの放送が、避難準備、避難勧告、避難指示と変わっていく状況をリアルタイムで体験し、やはり備えていなくては行かないものだと思ひました。そんな海も山もある神奈川地区ですが昨年は6月に交流会、10月に定期総会・研修会を開催しました。交流会

では横浜中華街の揚州飯店における肉まん・餃子作り体験をしました。同じ材料なのになぜか個性的な作品が出来上がり、楽しく美味しい体験でした。本年の神奈川地区会も会員相互の交流と親睦を深める場として皆で駅伝のように櫂をつないでいきたいと思っています。新しい年が一層良い年になりますよう祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 新潟地区会会長……………齊 間 理



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては健やかに新春をお迎えとの事と心よりお慶び申し上げます。昨年は北朝鮮のミサイル発射騒ぎで早朝にJアラートが鳴り響きここ新潟は柏崎刈羽原発がある事から大変不安と緊張感がありました。第4次安倍内閣が発足し安定基盤の政治が続くと思われしつかりした対応を期待し良い方向に行く事を願うばかりです。

我々に関係する事項として本年4月には診療報酬改定が待っています。2025年問題を見据えた医療と介護のマイナス改定が推測されますが遅れを取ることなく対応する事が重要と考えます。新潟地区では地区会と技師長会の合同事業として中越・中越沖地震の震災被害者に行う「エコノミクス症候群フォローアップ検診」で実施する下肢静脈エコー検査の統一マニュアルを作成致しました。多くの会員の皆さんに使って欲しいと思います。本年も会員全員でテーマを決めて頑張っていこうと思います。最後に関信支部の皆様のご健康とご活躍を祈念して新年の挨拶とさせていただきます。

## 長野地区会会長……………金 子 司



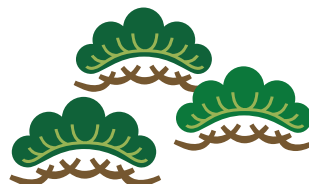
国臨協関信支部会員の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は、卓球女子ペア（みまひな）、（みうひな）の活躍、桐生祥秀9秒98の快挙、将棋 藤井四段の29連勝、清宮幸太郎 高校通算111号ホームラン、侍Jアジア初代王者など、若者の底力に感涙する一年でした。各施設に置いて、若手技師の活躍・成長に期待をよせているものと思います。

一方、時事問題では、トランプ暴走、森友・加計学園問題、神鋼データ改ざん、日産無資格検査など、国のリーダーやトップ企業が信頼を失う出来事が多々報道されました。「企業体質」という表現があります。人間の「体質」は、年齢を重ねると「体質改善」が困難になります。企業も老舗であるほど「企業体質」を「改善」することが困難となります。検査室においても、コミュニケーションの重要性やマニュアルに沿った行動、若手技師教育など、現場の「体質」の確認が重要で、不備があれば早期に「改善」が必要となります。手遅れになる前に、身体も仕事も常に「体質改善」を意識しないとイケません。

さて、長野地区会では昨年、関信支部学会の地区会コーナーで、優秀賞を頂きました。今年も一致団結し地区会活動を盛り上げたいと思います。また、まつもと医療センターは、1組織2病院の変則組織が、5月に松本病院の地で一体化統合され、新生「まつもと医療センター」としてスタートします。信州は「武田の弓矢向上也！」

最後になりますが、国臨協関信支部の益々の発展と会員皆様にとって素晴らしい一年でありますよう祈念いたします。



## 平成29年度主任臨床検査技師育成研修に参加して



NHO箱根病院  
久保 順 一

平成29年10月19、20日の2日間にわたり、国立病院機構本部講堂において平成29年度主任臨床検査技師育成研

修が開催されました。次世代を担う主任臨床検査技師の意識改革を推進し育成することを目的とした研修会で、若手の主任及び主任候補者を主たる対象としていますが、若くもない自分が参加してもよいものか悩みましたが、他に主任のいない施設で働いていく上で主任としての意識や役割等が少しでも身に付けばと思い参加させていただきました。

研修は主にグループワークや1分間スピーチ、またワールドカフェ方式によるディスカッションなど自発的に発言することを求められる内容が中心で、充実した2日間でした。

1日目は「臨床検査部門の中期ビジョン」についてと「主任としての役割」についての講義をしていただき、その内容についてグループワークやワールドカフェ方式によるディスカッション、1分間スピーチを行いました。

私の施設はISO15189認定の取得を行っていませんが、取得しないまでも認定取得に沿った業務を行うことや管理者の目で業務を管理し、部署としてのビジョンを明確にすることが重要であること、また医師や他部署などの信頼を得ることの大切さを痛感しました。

2日目は「適正な勤務時間管理とは」についてのワールドカフェ方式によるディスカッションを行いました。各施設の現状を交えながら話し合うことで他施設の考え方や取組などを知ることができ大変参考になりました。

今回の研修会では人材育成や女性の意識改革、子育て支援などの職場改革や適正な勤務時間などに主任が中心になるというメッセージが感じられる研修でした。最後に本研修会を企画、運営して下さった国立病院臨床検査技師長会及び関東信越グループの皆様にご心より感謝いたします。



NHO村山医療センター  
中 野 博 美

平成29年10月19日から20日の2日間にわたり、国立病院機構本部において平成29年度主任臨床検査技師育成研修

が開催されました。

本研修の目的は次世代を担う主任臨床検査技師の意識改革の推進・育成であり、主任経験の浅い若手の主任臨床検査技師が多く参加していました。

研修はグループワークやディスカッション、1分間スピーチなど自ら考えて発言することが多く求められる内容でした。

1日目は「臨床検査部門の中期ビジョン」について講義を受け、その後「中期ビジョン達成に向けた主任技師の役割とは」「働きやすい職場環境を構築するには」というテーマでディスカッションを行い、人材育成やコミュニケーションの重要性などについて多くの意見が出され活発な討議が行われました。

2日目は「適正な勤務時間管理とは」「品質管理を推進するためには」というテーマでグループワークを行いました。

勤務時間管理については、担当部門だけではなく他の部門とお互いに助け合いながら業務を行っていくという意見が多く出ていました。品質管理についてはISOの要求事項に照らし合わせて討議を行いました。当院は今のところISO受審の予定はありませんが、ISO取得施設の方々の話を聞くことができ、とても勉強になりました。

2日間にわたりたくさんのテーマで討議を行い、聴講だけの研修と比べ非常に有意義な研修でした。

施設は様々ですが同じような立場の方々と話ができて、交流できたこともとても良い経験になりました。今後はこの研修で学んだことをしっかり業務に生かせるように努力していきたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中ご講演いただきました先生方および本研修会を企画、開催していただいた関東信越グループの皆様、研修に参加させて頂く機会を与えて下さった職場の方々に感謝申し上げます。





## 臨床検査技師が訪問診療に 同行し地域医療に参入した

—茨城東病院 臨床検査科としての取り組み—

NHO茨城東病院 後 藤 智 彦

今年度、新たな試みとして当院臨床検査科が訪問診療に同行し地域医療に参入した経験について報告いたします。

茨城東病院では、平成29年4月1日から「医療サポートセンター」が開設され、在宅医療、地域医療連携、退院調整、感染管理の関連部門が一丸となり、当院を退院された患者さんが安心して退院後の生活が送れるようサポートを目的とした「患者さんの目線に立った、親切丁寧な医療機関」を目指すため、臨床検査科からもチーム医療に参画し業務支援を行う機会が出来ました。そこで、検査科全員がトレーニング環境を整え、すべての検査スタッフが業務調整により対応可能な体制作りを目指しています。

対象は、院内受診中の自宅療養患者ならびに通院困難、退院後の地域における訪問診療患者になります。

「医療サポートセンター」は、当病院の院内受診中の自宅療養患者、通院困難、入院患者を対象とし院内に医師、看護師、臨床検査技師によるチームを設置し、退院後の診査、診断、治療、訓練および指導を行っています。

検査技師が訪問診療に同行することにより有益な点は、医師、看護師が検査以外の業務に特化し集中出来ることです。その上で検査技師が検体採取（採血）から検査実施、判定、そして結果を医師に報告し、医師から患者さんに説明しています。時に技師が“なるほど・ザ・検査ミニ知識”第2版国臨協編集を使用して検査について注意事項や検査の説明を行っています。また、説明書を配布することで、口頭の説明だけではなく、後からでも説明内容の把握について確認できることや、わからなかったことを繰り返し資料で理解できることなど、訪問先の家族から好評でした。

患者さん宅では、測定ができない血液ガス分析検査の代わりに、重炭酸塩の依頼を受け、開封しない採血

管を院内にて測定を行い報告しています。

POCT 検査及び迅速検査可能な項目は次にあげるものとなります。

1. 検体検査（NT-ProBNP、トロポニン、CK-MB、Dダイマー、血糖、尿検査）
2. 生理機能検査 超音波検査
3. 迅速検査 インフルエンザ、レジオネラ、マイコプラズマ、肺炎球菌、A 群溶連菌、アデノウイルス、HCV、HBs

同行する検査技師は、患者さんや御家族の目の前でPOCT 検査を行うことで、測定機器の取り扱い方・技術の習得は当然のことであるが、さらには円滑なコミュニケーション能力を養うことが出来ること、また、人を育てる目的のツールとしてのキャリアパスにおける重要性についても再認識いたしました。日常業務の中、一人の技師が院外に出ることで残った技師がそれぞれの業務を分担し各自サポートをしています。本来業務以外に採血等の複数業務をこなせるようにし、検査科内での応援体制が整ったことから積極的に認定資格の取得や各自、経験した症例・事例についても情報共有がなされるようになりました。

この活動により、病気の進行等により、定期検査の通院が、体に負荷がかかる患者さん、御家族の方々や、検査関連業務に対する医師・看護師の負担が多少軽減されたことや多職種との連携強化が図られるようになりました。また、患者さんからは臨床検査技師に期待する支援業務として、検査に対する何らかの説明が期待される声も聞かれます。そこで訪問診療における検査説明も一つの患者支援として繋がるものと考えられます。この取り組みが当院のチーム医療に貢献できるものと推察され、医療機関以外でも行える臨床検査技師による POCT 検査等が訪問診療に於いてより一層の有用性が期待されるものと思われます。



## 平成29年度 内分泌・代謝性疾患 研修会に参加して



NHO高崎総合医療センター

中 島 亮

平成29年10月16日～18日にNHO京都医療センターで内分泌・代謝性疾患の研修会が開催されました。今まで本格的な糖尿病研修は受けたことがありませんでしたが、糖尿病医療に関心があったことと技師長に後押しされことで参加しました。今回のテーマは『楽しく患者をやる気にさせる糖尿病教育の実践：評価と危機管理を含めて』でした。

全国から臨床検査技師以外に薬剤師、栄養士、看護師、理学療法士といった職種の人たち64名が参加し、チーム医療を中心とした研修会でした。しかし、臨床検査技師の参加は、私を含め2名の参加しかなく寂しい思いもありましたが、研修会の中では検査技師の重要な役割をPRしてきました。

研修会の内容は、最新の糖尿病医療の知見や、誰にでもできる運動療法の指導等の内容をワークショップ形式で進行していきました。参加者は、若く関西地方の職員が多かったせいかテーマ通り楽しく活気あるワークショップとなりました。グループ内では、マシンガントークが炸裂して活発な意見が沢山出ていましたが、いざ皆の前でグループのまとめを発表となると遠慮して、その役割が私に回ってくるといったこともありました。スケジュールがタイトで京都観光に全く行けませんでした。どのセッションも時間がたつのが早く、あっという間の3日間でした。

職種毎の様々な意見を出し合いながら討議を進めていき、どの職種も無くてはならないチームの一員だと感じました。なかでも感嘆したこととして、栄養士が糖尿病コントロール不良患者の1週間の献立とグルコースサマリー値を見ただけで、患者の献立の改善策を考えていく過程が秀逸を極めていました。

その他に講義の中で印象に残ったものが2つあります。1つ目は発表する際にアイスブレイクを取り入れることが大事だということです。研修開始時は、初対面のこともあり皆緊張をしてリラックスできずに、周りとのコミュニケーションもできていません。そんな時に隣同

士と一緒に体を動かしたり、クイズを皆で説いていくと自然に和やかな状態になり、受講生も講師もリラックスして研修に自然と入りやすくなりました。私が体験したアイスブレイクは、体を動かす内容のものでグループ班員と肩を組んだり、握手をしたり、スキンシップをとることでした。はじめは戸惑いもありましたが、慣れてくるとチームワークが高まりグループ内の活発な討議へと繋がりました。2つ目は付箋紙を用いたワークショップ型研修でした。討論や発表をするときに付箋紙を使用し、自分が思っていることやわかっていることを付箋紙にまず書いておきます。検討事項を多面的に見ることができ、1人1人が意見を出し合って、方向性を導き出すことによって充実化や達成感、グループ内でのチームワーク力が得られ、さらに視覚的にも検討内容が明確になり、短時間で改善策を導き出すことができます。この方法は、これから自分自身の学会発表時にも活かしていける内容でした。

糖尿病の患者は、予備軍も含めると1,000万人と推計されています。また、最近では新しく持続測定血糖モニター（患者にセンサーを装着し連続数日間の血糖をモニター）なども導入されSMBGも変わっています。今回の参加人数でも分かるとおりに糖尿病医療に携わっている臨床検査技師は少ないようです。しかしチーム医療と呼ばれる中、臨床検査技師も積極的に関与して、是非参加することをお勧めします。ご自身のキャリアアップになることは間違いありません（京都観光はできませんが・・・）。最後になりましたが今回このような研修会を主催されたNHO京都医療センターの坂根直樹先生を始めスタッフの方々、研修会に参加する機会を与えていただいた当院技師長、スタッフ並びに関係者の皆様には深く感謝を申し上げます。





## 地区会だより

### 関信支部埼玉地区会定期総会・研修会を終えて



NHO西埼玉中央病院  
丸 山 陽 介

H29 年 9 月 9 日（土）NHO 東埼玉病院にて、H29 年度国臨協関信支部埼玉地区会定期総会・研修会が開催されました。

始めに、定期総会では議長に選出された西埼玉中央病院、小関副技師長の進行のもと、H28 年度経過報告と会計報告、H29 年度の会計予算案、議題等について審議され、会員の承認を持って無事に終了いたしました。

次に、講演 1 として、国立国際医療研究センター副技師長の前澤直樹先生に「ISO15189 と今後の臨床検査室」についてのご講演をいただきました。ISO の審査内容については、検体検査でのトラブル発生時の対応手順書、例えば生化学での内部精度管理でのコントロールの外れた場合にどういった対応をとるべきか、誰もが同じように確実に対処できるようにしておく…等、ISO を目的として体制を整えるのではなく、どの検査室にも普段から備わっていないなければならない内容ばかりであるということでした。さらに来年の法改正で加算に関わる部分では ISO の審査内容を参考にしていく可能性が高いとのことで、当院では認定を取得する予定はありませんが、今後の臨床検査の品質と技師としての能力向上のためには今から実践していかなければならないことばかりで非常に参考になりました。

講演 2 として、関東信越グループ医療担当臨床検査専門職の林亮先生より、「伝達事項ならびに会員の皆様に向けて」ということで、NHO の理念から始まり、

関信グループ臨床検査部門の事業、積極的なキャリアアップの必要性やグループ全体で取り組むべき問題についてご講演頂きました。

続いて「関信支部からの連絡事項」としまして国臨協関信支部理事の柳進也先生に今後の関信支部の予定、事業、年間予定、活動報告についてご講演頂きました。

講演終了後に場所を移しまして、「ASIAN FRENCH DINING 味市場」において、懇親会が行われました。店の雰囲気はとてよく、その名の通りアジアテイストで、良い意味で畏まりすぎず、初対面の方々とも気軽に話すことができ素晴らしい懇親会となりました。埼玉県地区会はまだ立ち上げから日が浅いですが、この機会にグッと埼玉県内の技師同士の結束が強くなったのではないかと思います。

最後にご講演、ご参加いただきました前澤先生、林先生、山崎副支部長、ならびに地区会役員の皆様、会場を提供して頂いた東埼玉病院の皆様には心より御礼申し上げます。

#### 平成29年度関信支部埼玉地区会役員

会 長：渡辺 靖（NHO東埼玉病院）  
事務局長：小関 燈（NHO西埼玉中央病院）  
会 計：飯島 健太（NHO東埼玉病院）  
理 事：前野しのぶ（国立障害者リハビリテーションセンター病院）  
理 事：阪 旨子（NHO埼玉病院）  
理 事：山下 知子（NHO西埼玉中央病院）  
会計監査：菅原 恵子（NHO埼玉病院）



### 関信支部東京・山梨地区会レクリエーションに参加して



NHO東京医療センター  
御園生 圭 太

平成29年5月13日（土）、池袋ハイパーレーンにて、関信支部東京・山梨地区会レクリエーションが開催されました。当日はあいにくの雨にもかかわらず、4施設から多くの会員が参加され

ました。レクリエーションのメインであるボーリング大会は、国立国際医療研究センター病院の永井技師長による見事なストライクの始球式で始まりました。2ゲームの合計得点が勝敗を決めるため、私を含め皆さんとても熱く盛り上がっていました。各レーン3～5人のチームは施設がなるべく重ならないよう振り分けられており、他施設の方との交流を大いに楽しみました。汗をかいた後は冷えたビールで喉を潤し、美味しい料理を頂きながら、ここでも他施設の方と貴重な会話を満喫しました。

順位発表と景品授与式で私は運よくこの日“神って”準優勝し、お礼と自己紹介を兼ねた挨拶をさせていただきました。準優勝という事でどんな豪華な景品かと楽しみにしていましたら、なんと冷蔵庫の脱臭器でした。今、職場の冷蔵庫で嫌な臭いを目いっぱい吸い込み大活躍し

ています。来年も“神って”今度こそ優勝し、豪華な景品を狙ってみたいです。

私は今回初めて地区会レクリエーションに参加させていただきました。仕事上、学術に関する研修会は必要不可欠ですが、同じ関信グループの会員どうしが楽しんで親睦を深め、また見慣れている職場のメンバーの別の一面を知ることができる今回のような会も、大切にしていきたいと思いました。最後になりましたが、お忙しい中、地区会レクリエーションを企画・開催して下さいました地区会理事の皆様、心から御礼申し上げます。



## 地区会だより

### 関信支部群馬地区会定期総会・学術講演会を終えて



国立療養所栗生楽泉園  
國嶋雄太

平成29年9月23日(土)天候にも恵まれ、草津から高崎へ向かう途中の景色も良く距離をも遠く感じさせない晴天の下、NHO高崎総合医療センター大会議室において、来賓として関東信越グループより林亮臨床検査専門職、国臨協関信支部より若林理事、群馬県立心臓血管センター技術部病理検査科技師長、小川公代先生をお招きして、平成28年度関信支部群馬地区会定期総会・学術講演会が開催されました。

学術講演では、小川先生より「仕事人生を“ラクに”生き抜く心の持ち方」について御講演頂きました。中でも、学会発表や勉強会で発表する事は他者に説明するために勉強し知識を得なければならない、すなわち発表する事は「自分磨き」であると言うお言葉に感銘を受け、これまで、発表は新しい発見を知ってもらえる機会のものであると思ってきた私にとって、新しい心の持ち方が出来ました。

続いて、林臨床検査専門職から「伝達事項ならびに会員の皆様に向けて」と題し、国立病院機構の概要と現状や、主任登用試験、本部での活動について多くの内容をご講演頂きました。

定期総会では、始めに峰岸会長の挨拶を頂き、平成28年度の各種報告、次年度事業方針と予算案、及び新役員の選出が審議され、会員の承認を持って無事終了しました。

総会終了後には「上州地鶏 軍鶏農場」において懇親会が行われました。

最後に、お忙しい中ご講演頂きました小川先生、林臨床検査

専門職、ご臨席賜りました若林理事、また企画・開催してくださいました群馬地区会役員の皆様に熱く御礼申し上げます。

#### 平成29年度 関信支部群馬地区会役員

会 長：清水紀臣(国立療養所栗生楽泉園)  
事務局長：渡部孝浩(NHO沼田病院)  
理 事：上杉弘尚(NHO渋川医療センター)  
理 事：出井美智子(NHO高崎総合医療センター)  
理 事：國嶋雄太(国立療養所栗生楽泉園)  
会 計：土橋実加(NHO高崎総合医療センター)  
会計監査：峰岸正明(NHO高崎総合医療センター)



### 関信支部神奈川地区会定期総会・研修会を終えて



NHO久里浜医療センター  
齋藤ひとみ

平成29年10月7日(土)、あーすぷらぎにて第36回国臨協関信支部神奈川地区会定期総会・研修会が開催されました。当日は会員37名の参加と、来賓として関東信越グループより林臨床検査専門職、国臨協関信支部より吉田副支部長と竹内

常任理事にご臨席を賜りました。

学術講演では栄研化学株式会社・営業統括部 マーケティング推進室の小林隆先生より「臨床検査の新たな領域 プライマリケア、検体測定室、一般検査薬(OCT)における臨床検査、国際標準化や各国の動きを加えて」と題し、日本と海外でPOCTの運用実態の違い、日本での被災地と在宅医療におけるPOCTについてご講演を頂きました。日本ではPOCTを緊急検査・ベッドサイド検査として利用していますが、米国では健康管理・モニターとしてコンビニ感覚で利用されている現状を知り、大変興味深い内容でした。

研修会講演では林臨床検査専門職より「伝達事項ならびに会員の皆様に向けて」と題して機構の現状や各種認定試験、主任候補者選考試験、日々の業務に対する心構え等の

ご講演を頂きました。スキルアップする前向きな姿勢と忘れがちな日々の身だしなみに気を配って取り組んでいきたいと思ひます。

その後、竹内常任理事より関信支部の活動内容等の紹介をして頂きました。

定期総会では、初めは佐藤地区会長ご挨拶で始まり次に来賓された吉田副支部長にご挨拶を頂きました。その後、平成

28年度経過報告・会計報告・会計監査報告、平成29年度事業方針案・予算案について審議され、会員の承認がなされました。最後に瀬下(新)地区会長のご挨拶をもちまして無事終了となりました。

定期総会・研修会終了後は、場所を移して懇親会が行われました。他施設と交流ができる貴重な機会であり、和やかな雰囲気の中で親睦を深めることができました。

最後になりますが、ご講演頂きました小林隆先生、林臨床検査専門職、ご臨席賜りました吉田副支部長、竹内常任理事、ならびに総会の企画・開催にご尽力頂きました神奈川地区会役員の皆様に心より御礼申し上げます。

#### 平成29年度 関信支部神奈川地区会役員

会 長：瀬下明子(NHO箱根病院)  
事務局長：竹内智明(NHO相模原病院)  
理 事：杉原理恵(NHO久里浜医療センター)  
理 事：鈴木芳明(NHO相模原病院)  
理 事：高橋千尋(NHO横浜医療センター)  
理 事：中井敦子(NHO神奈川病院)  
理 事：中野里美(NHO横浜医療センター)





## 地区会だより

## 関信支部新潟地区会定期総会・研修会を終えて



NHO新潟病院  
加藤 梨 紗

平成 29 年 10 月 14 日(土) NHO新潟病院において第 37 回国臨協関信支部新潟地区会定期総会・研修会が開催されました。来賓として関東信越グループより林臨床検査専門職、国臨協関信支部より椎名理事にご臨席賜りました。

はじめに研修会として、「採血業務(検査前プロセス)における基礎的な注意点～採血管の取り扱いと臨床検査値への影響について～」と題して、積水メディカル株式会社検査事業部の須長宏行先生よりご講演いただきました。意外と知らない採血管の話や、各部署での認識の違いなどを聞き、改めて採血等について正しい認識を持たなくてはならないと感じました。次に、林臨床検査専門職から「伝達事項ならびに会員の皆様に向けて」ということで機構の概要、各種認定の取得状況、スキルアップ研修等についてご講演いただきました。認定取得のための研修も多々あるので、積極的に参加し、自己研鑽に努めていきたいと思います。

定期総会では、山崎会長の



挨拶の後、来賓の椎名理事より活動報告をいただきました。続いて平成 28 年度経過報告、平成 29 年度の議案、新役員選出が審議され、会員承認のもと、無事終了し、新旧役員挨拶の後、閉会しました。

その後の懇親会では多くの会員が参加し、和やかな雰囲気の中、各施設の会員の方々と楽しく交流できました。

最後になりましたが、お忙しい中ご講演いただいた、須長先生、林臨床検査専門職、並びにご臨席賜りました椎名理事、会を企画、開催していただきました新潟地区会理事の皆様には厚く御礼申し上げます。

## 平成 29 年度 関信支部新潟地区会役員

地区会長 齊間 理(NHO 新潟病院)  
副 会 長 山崎 茂樹(NHO 西新潟中央病院)  
理 事 田辺 恵梨(NHO さいがた医療センター)  
理 事 加藤 梨紗(NHO 新潟病院)  
会計監査 保田 剛史(NHO 西新潟中央病院)



## 関信支部東京地区会定期総会・研修会を終えて



国立がん研究センター中央病院  
内 川 正 弘

平成 29 年 10 月 28 日(土)国立病院機構災害医療センターにおいて、第 4 回国臨協関信支部東京地区会定期総会・研修会が開催されました。来賓として国立病院機構関東信越グループから林臨床検査専門職、国臨協関信支部から峰岸会長にご臨席を賜りました。

研修会第 1 部はシーメンスヘルスケア(株)戦略マーケティング & エデュケーション部の松尾久昭先生より「2025 年に向けた病院機能の再編と臨床検査部門の対応」と題し、ご講演を頂きました。今後の人口動態や国が目指す病床機能の分化と地域医療構想の解説に始まり、この変化の中で必要とされる臨床検査部門とは、日臨技の方針を踏まえたチーム医療への参画、施設内の何処へでも・治療現場へ・地域へ、我々臨床検査技師の活動の幅を広げる重要性まで展開した内容でした。第 2 部では林専門職より「伝達事項ならびに会員の皆様に向けて」と題し、ご講演を頂きました。多くの情報提供がありましたが、特に国立病院機構や関東信越グループ主催研修事業への取組みについて興味深く拝聴いたしました。多くの方々のご尽力により、組織的に多角的に私達は研修を受けられる環境を享受していることに改めて感謝し、参加者全員がスキルアップを継続していく重要性を認識できたと感じました。

続いて定期総会が開催されました。久高会長より平成 29



年度の事業方針案が示され、会員一同これに賛同し更なる地区会活動の発展を目指して閉会となりました。その後、JR 立川駅前に会場を移し懇親会が行われました。普段接することがない施設の方々と酒を酌み交わし、世代を超えて和やかに楽しく交流することができました。

最後にお忙しい中ご講演を賜りました関東信越グループ林臨床検査専門職、シーメンス松尾久昭先生、ご臨席を賜りました関信支部の峰岸支部長、会場設営にご準備頂いた NHO 災害医療センターの石井臨床検査技師長並びに施設の皆様方に感謝申し上げます。

## 平成 29 年度 関信支部東京地区会役員

会 長 久高 果一 国立療養所多磨全生園  
副 会 長 平本 研二 NHO 災害医療センター  
事務局長 阿部 浩 国立療養所多磨全生園  
理 事 芦川 晋 国立がん研究センター中央病院  
理 事 小川 佳亮 NHO 東京病院  
理 事 浅野 太貴 国立精神・神経医療研究センター病院  
会計監査 宮越 基 国立がん研究センター中央病院  
会計監査 後藤 信之 国立精神・神経医療研究センター病院  
役員推薦委員 石井 幸雄 NHO 災害医療センター



# 会員のひろば

## NCGM検査部チーム 42.195Km走破で繋がったWA☆

国立国際医療研究センター病院  
屋 良 朝 仁

国立国際医療研究センター病院（NCGM）中央検査部門では、ここ3年連続で味の素スタジアムにて11月に開催される42.195Km リレーマラソンに参加してきました。1周あたり約2kmのコースをチームのメンバーで襷を繋げながら、合計で42.195kmを走破するというイベントです。最初の2年は一緒に参加している医師やメディカルチームに惨敗するという結果でしたが、今年は9チーム中4位という、一気にランクアップした結果を出すことができました！！

その後の打ち上げで仲間たちと飲み交わしたビールの味は言うまでもなく格別でした。

しかし、この結果を残した影にもいくつかのトラブルがありました・・・。

まさかの、「エースかつリーダーである選手の突然の棄権」検査部チームで唯一走れる頼りになるエースが、皆に参加へと駆り立てたにも関わらず、直前に参加できない事に！ 運動不足だらけの検査部チームに大打撃を与えました。

でも、そのおかげで皆の結束が強まった！（という事にしておきましょう笑）

そして、いざ出陣！！の前に、よく見ると、何故か6時間耐久マラソンの方にエントリーされている事に気付く！！さすがに、そんな自虐行為では、本職の検査にも影響が出る！という事で、なんとか42.195kmで修正してもらいました。

その後、無事にスタート！！したのはいいのですが、まだ第2走者が朝寝坊して会場に来ていない！

結局、スタート直後に到着した第2走者は寝ぼけ眼のまま走ってもらいました。

などと、多少のトラブルはありましたが、最後は皆さん怪我する事もなく（1人は日頃の運動不足が祟って階段も降りられなくなっていました）、無事にゴールできました。

そして、今回参加したメンバーにアンケート形式で今回のイベントについて聞いてみました。

### 1. 今回走った感想

- ・みんなとのコミュニケーションを持てた
- ・次回はもっと頑張って第3位を目指したい
- ・日々の運動不足を痛感した。生活習慣を見直すべき

みなさん、毎日の運動不足や、せっかくジムに通ったのに！！という無念の言葉や来年への意気込み、練習不足を嘆くお言葉をお答えいただきました。

### 2. 次回も参加したいと思うか

- ・もちろん参加する
- ・毎年参加したくないと言って参加している
- ・業務に差し支えない程度に参加したい

ずばり皆さん、8割程が「参加したくない」という様な意見を持っていました・・・が、毎年そう言いつつも走る事になるのですね。人間、数分の走っていた辛かった記憶は薄れて、楽しかった思い出や達成感の方が残るものです！そして、来年はもっと上位を目指すなら、メンバー皆で練習も必要かもしれませんね。医療に携わる者として、脱メタボ！健康寿命延長を目指しましょう！

### 3. 次回参加してほしいと思う人。

- ・今回参加できなかった若手技師
- ・技師長、副技師長

この質問に対して圧倒的に多かった答えは「技師長」でした。皆から好かれている技師長！これは要望に応じて来年参加して頂ければ皆大喜びです！また技師長だけでなく副技師長達のご参加も期待しています。

42.195km 完走に関して、皆さんネガティブ意見がありつつも、皆で協力して完走する間に普段話さない他部署の人とも仲良くなれるいい機会だった、といったポジティブなお言葉が多かったです。このリレーで繋いだ襷がきっかけに、ルーチン業務内でも検査部内でのコミュニケーションや、楽しい雰囲気での輪作りににも役買っている気がします。

大会後には他職種参加チームとの打ち上げもしていますので、来年はもっと多くの方が是非積極的に参加して、職種を超えたもっと大きな輪を作っていけたらなと夢を膨らませます。

更には、この記事をごここまで読んで頂きましたあなた！NCGM検査部への挑戦状でも、協力でも、是非参戦連絡お待ちしております！ 病院の壁も超えて輪を広げましょう！





## 第46回国臨協関信支部学会のお知らせ

学会テーマ「次世代の臨床検査へ」  
～知識・技術の継承と進化～

開催日：平成30年9月1日(土) 開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

例年、演題募集の締め切りが5月末ですが、開催場所の変更等の都合により早まる予定です。  
詳細は決まり次第、施設連絡者宛にメールにてお知らせし、ホームページにも掲載いたします。  
会員の皆様におかれましては、ご留意ください。

## 平成29年度 症例検討会

日 時：平成30年2月24日(土)  
13:30～15:30(受付13:00～) ※予定  
場 所：NHO東京医療センター 外来棟3階 大会議室  
講 師：天理よろず相談所病院  
臨床検査部 松尾 収二先生  
内 容：タイトル『臨床検査による診察作法を身につける！  
RCPC-患者さんから学ぶ検査の読み方・考え方』

平成29年度 退職会員を囲む  
合同交流会のお知らせ

日 時：平成30年4月21日(土)  
場 所：新御徒町 オーラム  
※同日は国立国際医療研究センターにおいて関信支部定期総会および第1回研修会を開催する予定です。詳細につきましては後日お知らせいたします。

## 国臨協関信支部今後の予定

| 月  | 日   | 曜日  | 今後の予定             |
|----|-----|-----|-------------------|
| 1月 | 13日 | 土曜日 | 地区代表者会議           |
| 2月 | 24日 | 土曜日 | 症例検討会             |
| 4月 | 21日 | 土曜日 | 定期総会・第1回研修会・合同交流会 |

\* 予定は変更となる場合がありますのでご了承願います。

平成30年度国臨協関信支部  
役員公募のお知らせ

役員推薦委員長 土井 誠一  
役員推薦委員 南雲 功  
役員推薦委員 桑村 良隆

平成30年4月の国臨協関信支部定期総会において役員の改選を行います。

つきましては、国臨協関信支部役員推薦規程第3条により役員を公募いたします。

公募用紙は関信支部HPの関信支部について／支部規約より「関信支部役員応募・推薦届出用紙」をダウンロードし、必要事項をご記入の上、以下の提出先に郵送またはメールにて書類を提出してください。なお、今年度より自薦であっても会員1名の推薦人(役職は問わない)を、必要としていますことを申し添えます。

締め切り：平成30年3月2日(金)

提出先：〒400-8533 山梨県 甲府市 天神町11-35  
NHO甲府病院 研究検査科 土井 誠一  
Tel: 055-253-61631  
e-mail: doi-s@nhokoufu.hoso.go.jp



今号の表紙の写真はNHO千葉東病院の石田健倫技師より応募して頂いた写真になります。関信支部よりお礼状と粗品を贈呈させていただきます。ご協力どうもありがとうございました。

## 人 事 異 動

【平成29年10月31日付 退職】

| 氏 名     | 旧施設名    | 旧職名 |
|---------|---------|-----|
| 入 澤 美 穂 | 沼 田 病 院 | 技 師 |

【平成29年11月1日付 採用】

| 氏 名       | 新施設名       | 新職名  | 旧施設名           | 旧職名 |
|-----------|------------|------|----------------|-----|
| 河 合 真 由 子 | 千 葉 東 病 院  | 技 師  | 国立国際医療研究センター病院 | 非常勤 |
| 屋 良 朝 仁   | 国際医療研究センター | 期間職員 | 国際医療研究センター     | 非常勤 |

編 集

後 記

新年あけましておめでとうございます。  
お正月はいかがお過ごしだったでしょうか。楽しく過ごされたでしょうか？

さて、今年は、4年に一度開催される冬季五輪が、韓国の平昌(ピョンチャン)で2月9日(金)から25日(日)の17日間に渡って開催されます。参加国は約100カ国、7競技102種目でメダルが争われます。日本からも多くの選手が参加します。一人でも多くの日本選手が表彰台の中央に立つことを祈りつつ、TV画面を通じて応援しましょう。“頑張れ日本!” 広報部 吉田 茂久

# 覚えよう 身につけよう 検査技術!

## 肝炎ウイルスマーカーの推移と測定意義

NHO相模原病院 田 中 暁 人

### <はじめに>

ウイルス性肝炎とは、肝炎ウイルスによる感染症で、主な肝炎ウイルスは、A型、B型、C型、D型、E型の5種類。そのうち、B型、C型肝炎ウイルスの国内の患者・持続感染者(キャリア)は、あわせて300万人以上にのぼると推計されている。日本ではD型肝炎はほとんどみられない。これらの肝炎ウイルスマーカーの推移と検査項目の測定意義について、今回はA型およびC型肝炎について概説する。

### 《A型肝炎》

HAVはA型肝炎の原因ウイルスで、主として糞口感染(fecal-oral transmission)の様式をとり、肝細胞で増殖し胆汁・腸管から糞便中に排泄され、HAVに汚染された食品や水などを介して感染する。

食事を介して感染することから集団感染や季節性流行が認められていたが、近年では通年発生の傾向にあり、輸入食品の増加、海外渡航者の増加、男性同性愛者を含む性的接触など、感染経路の多様化がみられる。

我が国を含む先進国では衛生環境の改善により感染頻度は減少傾向にあるが、HAV抗体を保有していないHAV感受性者の高齢化に伴い、高齢者での重症化や流行の拡大が危惧されている。

### A型肝炎の経過とHAVマーカーの推移



### <HAV検査の測定意義>

| 検査項目     | 臨床的意義                                                                                 |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| IgM-HA抗体 | IgM-HA抗体は、A型肝炎の発症後早期に陽性となることから、A型肝炎の急性期の診断に有用である。一般的にIgM-HA抗体は感染後3～6カ月間陽性を持続するとされている。 |
| HA抗体     | HA抗原に対する抗体で、HA抗体(主にIgG型)はHAV感染後に出現し生涯持続して検出されることから、感染の既往やワクチン接種による抗体獲得の把握に有用である。      |
| HAV RNA  | 血中では感染発症の前からALTのピーク前後まで測定検出される。                                                       |

### 《C型肝炎》

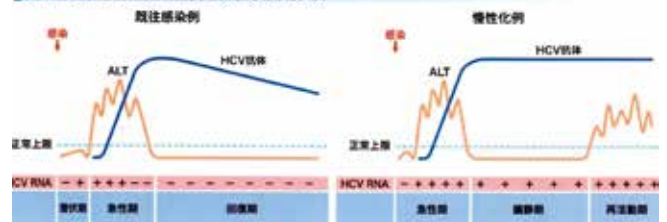
HCVはC型肝炎の原因ウイルスで、主としてHCV感染者の血液を介して感染する。

HCVに感染すると急性肝炎を発症し、約70%が自然治癒することなく慢性肝炎に移行し、自覚症状に乏しいまま感染から数十年の経過で肝硬変、さらに肝細胞癌へと進展する。

ウイルス性慢性肝炎の中でC型肝炎は約70～80%を占め、我が国での感染者は約150～200万人と推定されている。

C型肝炎の治療薬として、インターフェロンを使わない、著効率が極めて高い(95%～100%)、治療期間3ヵ月、重い副作用がない等、画期的な新薬が登場している。

### C型肝炎の経過とHCVマーカーの推移(想像図)



### <HCV検査の測定意義>

| 検査項目          | 臨床的意義                                                                                                                                                                                            |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| HCV抗体(第3世代)   | HCV抗体は、HCV感染を最も広く捉えることができる検査である。HCV感染を疑う場合あるいは検診において初めに行われるスクリーニング検査である。ただし、HCV抗体陽性のみでは現在の感染か過去の感染による抗体陽性かの鑑別は確実にはできない。<br>HCV抗体で陽性の結果が得られた場合には、HCV-RNA またはコア蛋白により現在の感染が否かを判定する必要がある。            |
| HCVコア蛋白       | HCV粒子はエンベロープに覆われ、その内部に一組のウイルスゲノムを包むようにヌクレオカプシド(コア粒子)が存在している。このコア粒子は数百のコア蛋白(HCV抗原)で構成されており、コア蛋白の測定はHCV量を反映しているものと考えられている。本検査は、PCR法によるHCV-RNA定量とも良好な相関を示すことから、C型肝炎患者の診断と経過観察および抗ウイルス療法の効果予測に有用である。 |
| HCV群別(グルーピング) | HCVのジェノタイプの違いにより抗原性が異なることを利用して特異抗体を測定することによって間接的にジェノタイプを判定する方法。<br>グループ1陽性はジェノタイプの1aおよび1bの何れかが陽性、グループ2陽性は2aおよび2bの何れかが陽性であることを示している。                                                              |

次号では、B型とE型肝炎について概説する。

### 参考文献

- 1) 八橋弘、他：日本臨牀69(増4)：553-558,2011
- 2) 岡本宏明：厚生労働科学研究費補助金 肝炎等克服緊急対策研究事業「経口感染する肝炎ウイルス(A型、E型)の感染防止、遺伝的多様性、および治療に関する研究」平成21年度～平成23年度総合研究報告書、平成24年3月(研究代表者 岡本宏明)
- 3) 日本肝臓学会 肝がん白書 平成27年度：2015年7月
- 4) 日本肝臓学会 肝炎診療ガイドライン作成委員会 編：C型肝炎治療ガイドライン(第3.2版)、2014